



平成21年11月11日

各 位

株式会社 302

横浜市港北区樽町三丁目7番60号
代表取締役社長 佐藤 和己
(コード番号 7294 東証 市場第一部)
問合せ先執行役員財務部長 佐草 彰
(TEL. 045-543-6802)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成21年7月14日に公表いたしました平成22年3月期(平成21年4月1日～平成22年3月31日)の第2四半期予想及び通期業績予想を下表の通り修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 平成22年3月期 連結業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

① 第2四半期連結累計期間業績予想の修正(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A) (平成21年7月14日発表)	百万円 33,200	百万円 310	百万円 300	百万円 △1,030	円 銭 △60.57
今回修正予想(B)	35,250	1,025	966	△245	△14.43
増減額(B-A)	2,050	715	666	785	—
増減率(%)	6.2	230.6	222.0	76.2	—
前第2四半期実績(平成20年9月期)	60,645	4,806	5,199	2,615	153.81

② 通期連結業績予想の修正(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A) (平成21年7月14日発表)	百万円 76,000	百万円 650	百万円 600	百万円 △1,000	円 銭 △58.81
今回修正予想(B)	77,000	2,410	2,360	640	37.64
増減額(B-A)	1,000	1,760	1,760	1,640	—
増減率(%)	1.3	270.8	293.3	164.0	—
前期実績(平成21年3月期)	112,658	6,374	7,468	3,194	187.85

2. 平成22年3月期 個別業績予想数値の修正 (平成21年4月1日～平成22年3月31日)

① 第2四半期累計期間業績予想の修正 (平成21年4月1日～平成21年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A) (平成 21年7月14日 発表)	百万円 15,300	百万円 △ 110	百万円 1,490	百万円 990	円 銭 58.22
今回修正予想(B)	16,124	303	1,893	1,436	84.46
増減額(B-A)	824	413	403	446	—
増減率	5.4	375.5	27.0	45.1	—
前第2四半期実績(平成20年 9月期)	—	—	—	—	—

② 通期個別業績予想の修正 (平成21年4月1日～平成22年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A) (平成 21年7月14日 発表)	百万円 34,500	百万円 △ 130	百万円 1,400	百万円 940	円 銭 55.28
今回修正予想(B)	35,300	140	1,700	1,280	75.27
増減額(B-A)	800	270	300	340	—
増減率	2.3	207.7	21.4	36.2	—
前期実績(平成21年 3月期)	40,611	874	3,216	598	35.22

3. 修正の理由

今後の経済見通しにつきましては、昨年の世界同時不況に比べ、中国を始めとする一部新興国の好調な回復に牽引され、世界経済は緩やかな回復が予想されます。

このような状況下におきまして、当社グループは、年初の営業損失予想から黒字転換を目指すため、(1)米国における最適生産体制のため、昨年のヨロズオートモーティブミシシッピ社(YAM)の閉鎖に引き続き、今年はヨロズオートモーティブノースアメリカ社(YANA)の操業を休止し、ヨロズオートモーティブテネシー社(YAT)への生産集約を進めている。

(2)日本及びアジアにおいても「最大の効率と徹底したミニマムコスト」をポリシーとした積極的な合理化活動などの諸施策を実行している。

などの成果が表れてきており、これらを踏まえ、業績予想の修正を行うものであります。

*上記の予想は、本資料の発表時における将来の経済環境予想等の前提に基づいて作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想値と異なる場合があります。

以 上